

呉工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	インキュベーションワーク	
科目基礎情報							
科目番号	0132			科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	自作プリント等						
担当教員	林 和彦						
到達目標							
1. 1年生においては、高専で学ぶ専門科目の概要を把握し、確固とした目標を持ち、技術者像を明確にイメージする。 2. コミュニケーションスキル、合意形成、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考力について、2年生においては認識し、3年生においては理解し、4,5年生においては活用することができる。 3. 主体性、自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップ、倫理観（独創性の尊重、公共心）、未来志向性、キャリアデザイン力について、2年生においてはその必要性を認識し、3年生においては理解し、4,5年生においては必要に応じて発揮できる。 4. 創成能力やエンジニアリングデザイン能力を2年生においては認識し、3年生においては理解し、4,5年生においては活用することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コミュニケーションスキル，合意形成，情報収集・活用・発信力，課題発見，論理的思考力について認識，理解，活用が適切にできる			コミュニケーションスキル，合意形成，情報収集・活用・発信力，課題発見，論理的思考力について認識，理解，活用ができる。		コミュニケーションスキル，合意形成，情報収集・活用・発信力，課題発見，論理的思考力について認識，理解，活用ができない	
評価項目2	主体性，自己管理能力，責任感，チームワーク力，リーダーシップ，倫理観（独創性の尊重，公共心），未来志向性，キャリアデザイン力について，認識，理解，活用が適切にできる			主体性，自己管理能力，責任感，チームワーク力，リーダーシップ，倫理観（独創性の尊重，公共心），未来志向性，キャリアデザイン力について，認識，理解，活用ができる		主体性，自己管理能力，責任感，チームワーク力，リーダーシップ，倫理観（独創性の尊重，公共心），未来志向性，キャリアデザイン力について，認識，理解，活用ができない	
評価項目3	創生能力やエンジニアリング能力を認識，理解，活用が適切にできる			創生能力やエンジニアリング能力を認識，理解，活用ができる		創生能力やエンジニアリング能力を認識，理解，活用ができない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HD)							
教育方法等							
概要	学生がプロジェクトテーマを設定し，メンバーを募集して，組織を立ち上げ，活動計画を立案して，実行できるようにすることを目標とする。学年及び学科の異なる学生同士でチームを組んで，技術者が備えるべき分野横断的な能力を養う。						
授業の進め方・方法	演習，実習，グループワーク，講義						
注意点	在学期間中に同じテーマは最長で2年間まで選択できますが，可能な限り多くのテーマに取り組む方が学習効果が上がります。また，テーマによっては1回だけ選択できるテーマもありますので，担当教員に確認して下さい。テーマ内容については，担当教員に授業後等の時間を利用して良く確認して下さい。（※）テーマによっては，中間試験および期末試験および学年末試験を行う。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		全体ワークによって，主体的に活動あうる態度と志向性を醸成する。		
		2週	全体ワークショップ		全体ワークによって，主体的に活動あうる態度と志向性を醸成する。		
		3週	全体ワークショップ		全体ワークによって，主体的に活動あうる態度と志向性を醸成する。		
		4週	チーム編成，個別ガイダンス		各テーマごとに分かれて，課題設定と課題解決プロセスを理解する。		
		5週	調査活動・実践活動／講習		調査活動において課題を設定し，課題解決について立案し，実行計画を立てる。		
		6週	調査活動・実践活動／講習		調査活動において課題を設定し，課題解決について立案し，実行計画を立てる。		
		7週	調査活動・実践活動／講習		調査活動において課題を設定し，課題解決について立案し，実行計画を立てる。		
		8週	調査活動・実践活動／講習		調査活動において課題を設定し，課題解決について立案し，実行計画を立てる。		
	2ndQ	9週	調査活動・実践活動／講習		課題解決のために，計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い，計画と活動実績との差異を見つけるなど，検討活動を行う。また，必要に応じて外部評価を受ける。		
		10週	調査活動・実践活動／講習		課題解決のために，計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い，計画と活動実績との差異を見つけるなど，検討活動を行う。また，必要に応じて外部評価を受ける。		
		11週	調査活動・実践活動／講習		課題解決のために，計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い，計画と活動実績との差異を見つけるなど，検討活動を行う。また，必要に応じて外部評価を受ける。		
		12週	発表準備		発表準備		
		13週	発表会		発表		
		14週	レポート作成と活動内容の振り返り		レポート作成：発表会后，活動成果としてレポートを作成する。		

後期		15週	期末試験（※）	
		16週	レポート提出と後期の活動のための計画立案	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
	3rdQ	1週	活動内容の目標の確認	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		2週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		3週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		4週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		5週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		6週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		7週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		8週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
	4thQ	9週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		10週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		11週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		12週	発表準備	発表準備
		13週	発表会	発表
		14週	振り返りとレポート作成	レポート作成：後期は1年間の活動内容を総括してレポートを作成する。
		15週	学年末試験（※）	
		16週	レポート提出	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	2	
		工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	2	
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的方法で明確化できる。	2	
		総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	40	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	20	30	0	50
分野横断的能力	0	0	0	20	30	0	50